



未来の夜空はどう見える？ 銀河が教えてくれること

谷口義明 著

岩波ジュニア新書 新書判 212頁 本体940円＋税

解説書
お薦め度
5
☆☆☆☆☆

今年1月上旬、谷口さんの突然の訃報に接し、いろいろと思い出していたら、書評の依頼を受けました。それから早や数ヵ月、本書を2回、ほかにも谷口さんの最近の著書数冊を読みました。

本書は、高校生天文部員2人の会話形式で、銀河形態のハッブル分類について考察を深めていく内容です。そして最後に、天の川銀河とアンドロメダ銀河が将来的に合体してできる「ミルコメダ」の話題で締めくくるものです。谷口さんはこの話をかなり気に入っていたようで、複数の著書で取り扱っています。というわけで、本書は最近のいくつかの著書のダイジェストでありながらも、天文部員の会話形式で展開させることで、とても読みやすく、わかりやすく仕上げられています。扱っているテーマはどこにでもあるものかもしれませんが、それが谷口さんにかかればこんなにも面白いものになるのかと驚きました。また、正直に言えば、私自身、知らないことも多く、とても勉強になりました。「うーん、谷口義明、恐るべし」

以下、特に印象に残った内容、フレーズを引用して紹介します。ほかにもたくさん面白い内容があるので、ぜひご一読されることをお勧めします。

「ハッブル分類は「不公平分類」なんだ」

これは、楕円銀河は横から見た姿（edge-on）なのに対して、渦巻銀河は上から見た姿（face-on）を描いていることを指摘したあとのフレーズ。そう言われてみれば、確かに、面白い見方ですね。

「左に見える銀河は小さくて、右側に行くほど

大きく描かれている」

これも言われてみれば確かに、ハッブルの銀河進化への仮説を反映していたのですね。

「規則銀河の定義」

ハッブルの著書“The Realm of Nebulae”で規則銀河が定義されているとは知りませんでした。

「大事なことは、自由にいろいろな可能性を考えることだ」

渦巻銀河をedge-onにしたハッブル分類を示したときのフレーズ。心に沁みます。

「ハッブルが分類したE7型は全部S0銀河だった」
確かにE7って探してもないですね。

「S0銀河の円盤は分厚い」

これは知らなかったです。速度分散が大きくて、それで渦巻きができにくいという解説は納得です。

「楕円銀河と渦巻銀河の合体の産物。それがソングレロ銀河」

えー、そうなのですか。知りませんでした。

「アンドロメダ銀河はリング銀河だった！」

Spitzer（赤外線）やGALEX（紫外線）で見たアンドロメダ銀河は渦巻きではなく、リングっぽい。

「なんと犯人はM32」

アンドロメダの涙とリング構造の謎解きは推理小説のようです。

最後になりましたが、本書のようにとても面白いたくさんの著書や数々の研究成果を世に出された谷口さんのご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

井上昭雄（早稲田大学）